



くらはし

舞鶴市立倉梯小学校
学校だより 6月号
令和8年5月29日

つながりの中で育つ力

校門横では、白やピンクのサツキがやさしく花を咲かせています。地域に咲くサクラやツツジで春の訪れを感じていましたが、サツキが咲くころになると、初夏の訪れを実感します。まさに季節のバトンが受け継がれていくようです。気候も穏やかで過ごしやすく、子どもたちは運動場で元気いっぱい体を動かしています。外での活動を楽しむ姿から、心身ともに伸びやかな成長を感じる毎日です。

さて、本年度より週時程に位置付け、「なかよしタイム（特別活動の時間）」をスタートさせました。毎週水曜日の昼に約25分間設定し、児童集会（本校では「倉ちゃん集会」と呼んでいます）、なかよし班による遊び、係活動など、学校生活を豊かにするさまざまな活動に取り組んでいます。学年の枠を越えた交流や、自分たちで考えて動く経験を大切にしながら、子どもたちが主体的に関わる時間としています。

特別活動の目標は「よりよい集団や社会の形成者として必要な資質・能力を育成すること」です。具体的には、望ましい人間関係を築く力、自主的・実践的に課題を解決する力、そして仲間と協力しながら学校生活をよりよく創り上げようとする態度を育てることを目指しています。知識の習得だけでなく、実際の生活場面の中で学びを生かし、よりよく生きていく力の基盤を培う大切な時間です。

これまでに3回ほど実施してきましたが、その中で中心となって活躍しているのが6年生です。1年生をはじめ全校のことを考えながら、どのようにすればみんなが楽しめるかを真剣に考え、準備し、運営しています。「みんなが笑ってくれてうれしかった。」「もっと工夫したい。」といった活動後に毎回記入する振り返りの言葉からは、活動に対する手応えと次への意欲が感じられます。

また、当初は「できた」「成功した」といった結果に目が向いていたものが「楽しかった。集会が好きになりました。」「みんな喜んでくれたからうれしかった。」といった感情や意欲へと変化してきています。

さらに、「失敗しないか不安だった」という声が、「間違えたけれど楽しかった」といった前向きな受け止めへと変わってきている点も大きな成果です。安心できる集団の中で活動することで、失敗を恐れずに挑戦する姿が増え、明らかに子どもたちのレジリエンス（失敗を受け入れ、乗り越える力）が高まっています。そして、「成功できた」という結果の確認から「自分是可以する」という自己効力感へと意識が変容してきていることも注目すべき点です。

ある6年生の児童にインタビューをしてみると「もっとよくするには、全部真面目にするんじゃないくて、時々なんか面白いこととか楽しいこととかを入れたらいいと思います。1年生をお世話する力とか、全体で合わせる力とかもついたらいいと思います。」と力強い答えが返ってきました。

私たちは、このような特別活動の積み重ねを通して、子どもたちが将来、社会の中で主体的に関わり、協働しながら課題を解決していく力を意図的に育成していきたいと考えています。見えにくい力ではありますが、日々の活動の中で確実に育まれていることを実感しています。

校門横に咲くサツキの花は、静かに、しかし確かに季節の移ろいを伝えてくれています。その姿は、日々少しずつ成長していく子どもたちの姿とも重なります。これから迎える初夏のさわやかな風とともに、子どもたちの歩みがさらに伸びやかなものとなることを願っています。

校長 四方 直人